

職場の教養

11
2025
NOVEMBER

三光物産株式会社



一般社団法人 倫理研究所

職場の教養

11月号

2025(令和7)年11月1日発行
(毎月一回・日発行)
第50巻11号 通巻510号

編集人 三浦貴史
発行人 和田毅

一般社団法人 倫理研究所
<https://www.rinri-jpn.or.jp>

本誌は非売品で、倫理研究所の法人会員に毎月無料で贈呈しています。入会のお申し込みやお問い合わせは、倫理法人会事務局へお問い合わせください。

2026 今日の道しるべ 標語カレンダー



お得意様やお客様へ社名やロゴ
キャッチフレーズ等を入れて
贈ってみませんか。

表紙&31日分のカレンダーの下段に
御社のネームを印字し、PRできます。

自社の住所・社名・ロゴ・
電話番号・企業理念
などが入れられます。
(表紙&31日分)

名入れのご注文を
承ります (100部~)

1,000部以上のご注文にも
対応いたします。

名入れ部分

寸法:ヨコ112mm×タテ35mm

[標語カレンダーのサイズ] ヨコ130mm×タテ380mm

お得なカレンダー
4点セット



2026
標語カレンダー
定価
500円(税込)

通常価格2,400円(税込)

特別
価格
1,980円(税込)



子育て
カレンダー
定価
700円(税込)



こども
カレンダー
定価
700円(税込)



子供ミニ
カレンダー
定価
500円(税込)

子育てカレンダー(親向け)と、こどもカレンダー(子供向け)の内容が毎日リンク

こども
カレンダー
標語の例
1日 よーいドン! サツと起きよう、元気よく
2日 あいさつは、いつでも誰にでも自分から
4日 おじいちゃん、おばあちゃんだから私がいる

※子育てカレンダー、こどもカレンダー、子供ミニカレンダーは、2017年発売時と同じものです。

定価 500円(税込)
発行/倫理研究所

ご注文方法

お届け先の《〒・住所・氏名・電話番号と品名・部数》をご記入のうえ、右記いずれかの方法で倫理研究所販売係まで。商品3,000円(税込)以上お買い上げの場合、送料無料で。代金は商品に同封の郵便振替用紙にてお支払いください。

- ① ハガキ: T102-8561(住所記載不要) 倫理研究所販売係宛
- ② FAX: 03-3239-7430
- ③ ホームページ (右のQRコードから申込み可)



所属

氏名

今日の心がけ◆仕事を通して成長しましょう

イベント会社に務めるAさんは、小学生を対象としたイベントに携わりました。今回は秋の連休に、全国から五十名ほどの小学生を募り、各学年混合の七名のメンバーでチームを編成し、山登りや屋内で体を使った競技に挑戦しました。イベントの目的は、困難なことにチャレンジして、自信をつけてもらうことです。Aさんは、ある児童がチームで行なうボール競技に取り組んだ結果、僅差で敗れて、号泣する姿を目にして気づいたことがありました。

チームの目的が「優勝(成功)」であれば、そのチームは失敗したと言えるかもしれません。しかし、チームの目的を「個々の成長」と捉えるならば、皆で努力したすべてのプロセスには意味があったということになります。

しかもそれは、号泣した児童や他のメンバーの人生の糧になり、自信につながること、Aさんは気づいたのです。

《今、自分は懸命に仕事に取り組んでいるだろうか》と自問したAさんは、改めて初心に返り、自己の成長を意識しながら仕事に向き合おうと決意したのでした。

日本再発見! -山城編-

のべさわじょう
延沢城
(山形県尾花沢市)

標高約297mの丘陵に築かれ、霧山(きりやま)城とも呼ばれる延沢城は、なんといっても大堀切が特徴だ。山道を辿り大堀切に着くと、「天人清水(てんにんすず)」と呼ばれる泉が現われる。天文年間(1532～1555年)に延沢城を築

今日の心がけ◆夜空を眺めましょう

岩手県花巻市では昨年、「花巻スペースプロジェクトUP花巻」が開催されました。その取り組みの一つとして、花巻北高等学校の生徒たちが中心となり、宇宙で短歌を創作するというユニークな試みが行なわれました。

全国や海外から募った短歌の上の句(五・七・五)と、生徒らが創作した下の句(七・七)を、人工衛星「YODAKA」に地上から別々に送信します。これらが宇宙空間に到達した順番で組み合わせり、一首の短歌が完成する仕組みです。

次の短歌は、完成した三百七首の中から秀作の一幕に選ばれた作品です。

「目が慣れてきたころ空は語りだすあなたにとどけわたしはここに」

宇宙で偶然に生まれたとは思えないほど、感性豊かで心に響く一首です。宇宙で短歌を作るといふ試みは、高校生たちにとって未知への探究であり、壮大な宇宙に改めて思いを馳せる貴重な機会となったことでしょう。

日々忙しく過ごしている私たちですが、空気が澄んでいるこの季節には、ふと夜空を見上げて、星や宇宙に思いを巡らせてみてはいかががでしょうか。

城した延沢満重(のべさわみつしげ)が、ここから現われた天女を妻とした伝説が残る地だ。その先の主郭では、推定樹齢1000年の大杉と、尾花沢盆地を見通せる素晴らしい眺望が待っている。



今日の心がけ◆自身の信念を大切にしましょう

八月に行なわれた陸上の「富士北麓ワールドトライアル」男子100メートルで、桐生祥秀選手が今季の日本人最速タイムとなる9秒99を記録しました。桐生選手は、二〇一七年に日本人初の九秒台となる9秒98を記録しています。その後は、学生時代から思っていた潰瘍性大腸炎の影響で休養するなど、苦しい時期を過ごしましたが、それを乗り越えての今回の好結果となりました。桐生選手の専属トレーナーの後藤勤氏は、桐生選手の長所に「怪我や結果に対して人のせいにはしない」「感謝の言葉をたくさん述べる」などを挙げています。また、桐生選手は、たとえコーチやトレーナーに勧められたトレーニングでも、自分で確認するまでは鵜呑みにせず、自分に合わないかと判断すれば続けません。このように他人の提案を安易に受け入れるのではなく、あくまで自己の感覚や信念を大切にする姿勢が、責任感や感謝の気持ちを育んでいるのでしよう。情報が溢れる現代ですが、それに振り回されないためにも、自分の信念と軸を持って物事を判断したいものです。

今日の心がけ◆信頼を積み重ねましょう

二〇二五年、日本とブラジルは国交樹立百三十周年を迎えました。この長きにわたる友好の礎には、数多の先人たちの並々ならぬ努力がありました。中でも特筆すべきは、初の集団移民を成功させた水野龍氏の功績です。氏は日本の新たな活路を求め、ブラジル移住を計画しました。前例のない事業ゆえに資金難など多くの困難を伴いましたが、強い信念を貫き、実現へと導きました。一九〇八年四月、移民船の「笠戸丸」は神戸港から七八一名を乗せ出航。言葉も文化も異なる新天地での生活は、大変な苦労があったことでしょう。それでも移民たちは、その勤勉さで信頼を築き、ブラジル社会に大きく貢献しました。この渡航は、両国の文化と人々をつなぐ友好の架け橋となりました。その影響もあって、ブラジルの様々な文化は今日の私たちの生活にも深く根付いています。先人が築き上げた信頼と努力の軌跡が、いかに現代へとつながっているか、この歴史は明確に示しています。私たちもまた、日々の業務に誠実に取り組み、信頼を積み重ねることで、持続可能な未来へ貢献していきたいものです。

日本再発見! -山城編-

いちじょうたにじょう
一乗谷城
(福井県福井市)

一乗谷城といえば、朝倉氏の館群が知られるが、真に見るべきは、背後にそびえる比高約430mの山城だ。広さ約1500mの千畳敷、不動明王を表わした石仏の根本から湧き出る「不動清水」、日本海まで眺望できる「宿直(とのい)」

など見どころが満載だ。最後の当主・朝倉義景は織田信長の猛迫により一乗谷を放棄したが、これだけ広大で堅固な城を決戦の地に選んでいたら…。歴史の「イフ(if)」に思いを馳せずにはられない。



今日の心がけ◆思い込みを改めましょう

新居に引っ越して数年が経ったTさんは、近所の人が苦手でした。引っ越し当初、家の前を通る人に何度か挨拶をしたものの、ほとんど返してもらえません。多くの人がチラッと一瞥するだけで通り過ぎていったのです。〈何か悪いことでもしたのでは〉という思いが高じて、近隣の人のみならず、引っ越し先の地域全体に対しても苦手意識を持つようになってしまいました。外出時、なるべく人と会わないようにしていたのですが、ある日の出勤時、花壇の手入れをしていた近所の女性とばったり出くわしてしまいました。一瞬、〈また嫌な思いをする〉と身構えたのですが、思い切って「おはようございます」と声をかけると、「お疲れ様、いつてらっしゃい」と返されたのです。あたたかな見送りの言葉をかけられたTさん。その日の通勤の足取りが軽くなり、職場でも穏やかな気持ちで仕事ができたといいいます。Tさんは、自分の勝手な思い込みによって地域の人にマイナスの感情を抱いていたことを深く反省したのです。

日本再発見! 山城編

や かみじょう
八上城
(兵庫県丹波篠山市)

1575(天正3)年、明智光秀と謀反した波多野秀治、秀尚、秀香兄弟が戦った「八上城の戦い」。その舞台がこの城だ。処刑の際に刀を洗ったとされる「血洗池」や、秀治の娘が身投げしたという「朝路池」、さらには人質として差し出さ

今日の心がけ◆一つの仕事を極めましょう

日本のプロ野球を経てメジャーリーグで活躍したイチロー氏が、今年一月、アジア人として初めてアメリカ野球殿堂入りを果たしました。七月にクーパーズタウンで行なわれた表彰式では、約十九分間にわたり英語でスピーチを行ない、野球への深い感謝と人生哲学を語りました。「人はよく私を記録で評価します。三千本安打、十回のゴールドグラブ、十シーズン連続二百本安打。(中略)でも本当のところ、野球がなかったら、私はどうしようもないやつだと言われていたかもしれません。野球は、何が大切かという価値判断を教えてくれ、人生観や世界の見方を形づける助けとなりました」スピーチからも分かるように、イチロー氏にとって野球は単なる競技ではなく、人生そのものを形づくる道しるべでした。一つの仕事に真剣に向き合うことで得られる経験や教訓は、仕事の枠を超えて人生全般に通じるものがあります。「一芸に秀でれば万事に通ず」と言われるように、目の前の仕事に全力を尽くし、その道のプロフェッショナルを目指すことが、豊かな人生の第一歩となるのです。

れた光秀の母が磔にされたという「はりつけ松」といった悲劇を物語る地が残るが、いずれも真偽のほどは定かではない。波多野兄弟は最終的に信長軍に捕らえられ、安土城下で磔刑(たっけい)に処されている。



今日の心がけ◆物の働きに目を向けましよう

Tさんは自家用車が故障し、修理代が高額だったことから、現在の車両を下取りに出して買い替えることにしました。

販売店に向き、気になっていた車に試乗したところ、初めて体験する運転支援システムに感動し、購入を決めました。納車までには一カ月ほどかかると伝えられ、Tさんは納車される日を楽しみにしていました。

納車日当日、Tさんは下取りに出す車を洗車することにしました。洗車していると、長年の使用でこびりついた汚れや、小さな傷があることに気がつきます。傷や汚れを見ていると「この車に守られながら出かけていた」「この車のおかげで家族の楽しい思い出がある」と、感謝の思いが込み上げてきました。

そして、車体から室内まで丁寧に洗車を終えたTさんは、「新しい車も日々大切に乗りよう」という気持ちになりました。

車に限らず生活を支えてくれているものを手放すときには、その働きを振り返り、感謝の思いを深めたいものです。

日本再発見! -山城編-

さいまいじょう
佐伯城
(大分県佐伯市)

至るところに積み上げられた石垣、石垣…。1602(慶長7)年、毛利高政が築城した近世城郭でありながら、平地や丘ではなく山上に造られた珍しい城だ。高さ約13m、長さ約30mの階段状の大石垣や、水門とみられる施設跡など興味

今日の心がけ◆背景を知りましよう

秋が深まってくると、街を黄色く彩るイチヨウ。国土交通省によれば、イチヨウは全国で最も多く植えられている街路樹だそうです。一億七千万年前のジュラ紀には存在していたとされ、「生きている化石」と呼ばれることもあります。

しかし、現在私たちが目にするイチヨウのほとんどは人の手によって栽培されたものであり、野生のイチヨウは中国に僅かに残されているだけで、国際自然保護連合はイチヨウを絶滅危惧種に分類しています。

つまり、私たちが目にする当たり前のように目にしている、美しい景観を作り出すイチヨウの木は、人間の努力の賜物だと言えるでしょう。

イチヨウの落とす銀杏の独特な匂いが苦手な人もいるかもしれませんが、こうした背景を知ると、イチヨウの貴重さや有難みを感じるのではないのでしょうか。

日々の様々な出来事に対しても、その背景を知ること、興味や関心や理解が深まるかもしれません。相手の言動や、起きた出来事の経緯を知ることが、その事実を受け入れる第一歩となるのです。

深い遺構が残る。また、本丸と二の丸を繋ぐ「廊下橋」は屋根と塀をもち、石垣造りの堀切の上に橋が架かる構造だ。有事には橋を落として侵入を防ぐと考えられている。実用的で合理的な美しさを備えた城である。

